

成績評価の手引き（大学院）

1. 静岡大学大学院工学研究科化学バイオ工学専攻（化学システム工学プログラム）では、下記の(A)～(I)の学習・教育達成目標を設定しています
 - A. **文化や社会を含めた多面的に考える能力**
人類の持続発展可能な循環型社会の構築の視点から、技術者のリーダーとしての責任を自覚し、文化や社会を含めた多面的に考える能力を身につける。
 - B. **社会や自然に与える影響を配慮する能力**
技術者のリーダーとして、技術が社会や自然に与える影響を理解し、安全及び環境に配慮した考え方のできる能力を身につける。
 - C. **数学と自然科学の高い能力**
数学および自然科学の高度な知識を応用できる能力を身につける。
 - D. **応用化学分野や生物工学分野の知識とその応用能力**
化学の原理を基礎とする応用化学分野や生物工学分野の高度な知識により、多面的な物づくりの過程が理解できる能力を身につける。
 - E. **高度なデザイン能力**
本学の理念である「自由啓発」に学び、様々な知識を応用して安全及び環境にも配慮した高度なデザインのできる能力を身につける。
 - F. **コミュニケーション能力**
論理的思考法を養い、討議および発表する能力、および英語でのコミュニケーション能力を身につける。
 - G. **自主的かつ継続的に学習する能力**
技術者のリーダーに求められる能力の向上のために、情報を収集すると共に自主的かつ継続的に学習する能力を身につける。
 - H. **高度なマネジメント能力**
技術に関する問題に対し、与えられた条件の下で、それを解決するための高度なマネジメント能力を身につける。
 - I. **チームで協力して問題を解決する能力**
修士論文研究、特別セミナーおよび物質・バイオ工学研究を通じて高度な創造力を養い、チームで協力して問題を解決する能力を身につける。
2. 科目毎に上記(A)～(G)の学習・教育目標の内のどの項目について教授するものなのかを鑑み、その項目に関する達成基準が設定されています。その内容は、シラバスに記述され、ホームページにも掲載されています。
3. 授業中に実施したレポート及び演習に関しては、模範解答が知らされます。
4. 授業中に実施したレポート・演習及びテストに関しては、主要な部分がコピーなどで保存されます。評価の内容については、希望があれば教員から学生に伝えられます。講義内容で理解不足の点があれば、教員に積極的に質問して下さい。

以上